



THE SERVICE CLUB OF THE YMCA
AFFILIATED WITH THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF Y'S

The Y's Men's Club of Kanazawa

CHARTERED JULY 9, 1947

c/o KANAZAWA YMCA 44-1-202 SATOMI-CHO KANAZAWA 920-0998

国際会長主題	「全ての世界に出て行こう」 “Go Ye into All The World”
アジア地域会長主題	「未来を始めよう、今すぐに」 “Start Future Now”
西日本区理事主題	「志をもって例会に参加し、学びの機会をもちましょう。」 “Attend club meetings with a clear motive to make the most of them.”
中部部長主題	「長所を活かして生き生きと」
金沢クラブ会長主題	「多くのワイズと出会い、多くのワイズと握手を交わそう」

2013 8 月間強調 Youth Activities

今月の聖句

自分自身を愛するように隣人を愛しなさい

レビ記19節18章

8月強調月間

身近なユースの活動を知り、協働を図り
ましょう。

正野 忠之 Yサ・ユース事業主任

(大阪河内クラブ)

8月例会プログラム

とき 2013年8月15日 (Thu.) 18:30~20:30

ところ 金沢ニューグランドホテル

会費 ¥3,000 (会員不要) ¥2,000 (メット)

司会 数澤輝夫君

開会・点鐘 幸正一誠会長

主 題 司 会 者

ワイズ・ソング 一 同

今月の聖句 司 会 者

ハッピーハーベストイ 幸正一誠会長

ゲスト紹介 伊藤仁信君

食前の感謝 西信之君

~~~~~会 食~~~~~

スピーチ 山岸勝信氏

“アナログからデジタルへの谷間”

委員会報告 各 委 員

ニコニコタイム 伊藤仁信君

YMCAの歌 一 同

閉会・点鐘 幸正一誠会長

### 7月クラブ活動状況

#### 第1例会 (7月18日 Thu.)

メ ン : 伊藤、数澤、幸正、澁谷、清水、西、  
山内、山本 (8名)

出席率 : 100 %

メネット : 伊藤、数澤、山本 (3名)

ゲスト : 高口夫妻、西尾父子、金沢犀川クラブ (澤  
瀬、北、川村、竹中の各氏) (8名)

#### 第2例会 (7月1日 Mon.)

メ ン : 伊藤、数澤、幸正、澁谷、山内 (5名)

メネット : 数澤 (1名)

#### ニコニコタイム

27,500円

クラブファン

累計

27,500円

#### BFポイント

切手

0 kg

累計

0 kg

現金

0円

累計

0円

会 長 幸正一誠 書 記 山内ミハル

副会長 澁谷洋太郎 会 計 伊藤仁信

前会長 数澤輝夫 ネット会長 数澤淑子

第一例会 : 毎月第三木曜日 18:30~20:30

金沢ニューグランドホテル Tel (076)233-1311

第二例会 : 毎月1日 18:30~20:00

金沢ニューグランドホテル 2F (トレド)

## ♪♪♪楽器との出会い♪♪

清水 淳

7月例会を休ませていただき、東京ドームでの都市対抗野球で信越クラブ応援団としてアルトサックスを吹いてきました。

中学1年生の秋、音楽の先生から呼び出され「ブラスバンドに入ってくれ」と言われました。当時ブラスバンド部はなく運動部の数人（主に陸上部・水泳部）でバンドを編成し運動会・文化祭で演奏をしていました。肺活量とリコーダーの腕を買われてスカウトされました。先輩が卒業しテナーサックス、3年生になりバリトンサックスを吹くようになりました。ブラスバンドではアルトは主旋律、テナーは裏旋律、バリトンはベース音を担当します。主旋律は目立ちますが、マーチでの美しく流れるような裏旋律、力強いバリトンの低音も魅力的です。1年生のころは放課後音楽室で練習と称して遊んでいることが多かったのですが、いろいろな楽器にふれることができ「音を楽しむ」日々でした。

2年生になり、顧問の先生が替わり練習も本格的になり、コンクールに参加することになりました。中3の夏休みは毎日練習し、コンクールに備えました。ところがコンクール当日、会場の紫錦台中学の床で滑り楽器を壊して音が出なくなりみんなに迷惑をかけました。

中学・高校とも少人数の弱小バンドだったのですが、どちらも今では定期演奏会を開催するようになっているのがうれしいです。

高校ではテナーサックスを数か月。大学ではYのクリスマスでリーダーバンドを結成し後輩に借りたアルトサックスを吹きました。

就職当初は全く楽器を吹く機会はなかったのですが、同期の結婚式の余興で吹くことになりアルトサックスを購入しました。その後吹く機会はないまま数年が過ぎました。機会を求めて会社の応援団に入り野球部の応援で東京ドームや京セラドームで吹くことができました。野球部が休部となり、宴会の余興やチンドン屋の手伝いで吹いたりしていました。そして10年前から信越クラブ（元 NTT 信越野球部）の応援に参加し今回で4度目の東京ドーム出場となりました。

信越クラブの応援団は NTT 社員中心ですが、今では半数以上が社外のメンバーです。都市対抗野球には地区内の他のチームの選手をチームに加える「補強選手」という制度があるので自称「補強応援団」として参加しています。

野球の試合と楽譜とチアガールを見ながら演奏しないといけないので試合中は忙しく、チャンスが続くと延々と演奏を続けるので体力もいります。

サックスを始めてやがて40年になりますが、技術的には中学3年生の頃がピークでなかなか上達はしていません。応援団での演奏は音の大きさが大事なのでその点では貢献できていると思います。小学生の頃は声が出にくかったので音楽の授業で歌うのは好きではありませんでした。楽器を覚えたおかげで音楽の授業も楽しくなり、今では歌も堂々と歌えるようになりました。これからも音を楽しんでいきたいと思っています。

### 【7月例会報告】

7月例会は、いつものように開会点鐘から始まり、各主題の朗読、ワイズソング斉唱、今月の聖句朗読、会長によるスピーチ（今期の方針等）に続いてYMCAの歌を歌った後、場所をパラッツォに変えて、6月で退会となった高口メン、メネットと西尾メン、コメットの送別会をしました。金沢犀川クラブからも4名の参加をいただき、ビールで乾杯。食べ放題のバイキングに舌鼓を打ちながら、楽しい宴の時を過ごしました。3期目となる会長の今期の方針は次のようです。



幸正会長 今期の抱負を語る



別れの宴で…再入会を期して固い握手



## 金沢ワイズメンズクラブの皆さんと歩むこの1年

会長 幸正 一誠

本日、2013-2014 年度のキックオフを皆さんと共に出来た事を感謝申し上げます。

会長主題として「多くのワイズと出会い、多くのワイズと握手を交わそう」を掲げました。私の浅いワイズ歴から申し上げれば入会当時は、例会での卓話者のスピーチに心を打たれ、今後は「片町人生スクール」を卒業しその費用をワイズへの思いを強くし、例会出席を重視致しました。しかし、先輩ワイズに連れられて中部部会や滋賀・蒲生野クラブとの合同例会あるいは、他クラブの周年祭等に出席し、初対面のワイズと出会い名刺交換し握手を交わす度に、ワイズメンズクラブの楽しさは「人との出会い」に有るのでは？と感ずる様になってきました。又、我がクラブがホストを務めた中部部会で京都パレスクラブの大野ワイズの講演で聞いた「小堀理論」とその中心を成す「交流と親睦」との言葉に出会いその重要性を一層認識いたしました。この2期の間にそれを実践すべく、積極的に他部会や他クラブの周年祭に出席し、握手と名刺を交わしました。そこで、益々ワイズ活動に於ける「交流と親睦」の意義を強く感じ今期の会長主題と致しました。我がクラブに置きましても、皆様のご協力を得て、金沢クラブらしく「楽しい～と美味しい～」特別例会をこの2期で数回催す事が出来ました。しかし、「交流と親睦」の醍醐味は他クラブのワイズとの出会いに有ります。幸い今期中部部会が金沢で開催されます、この機会を是非活用し、多くのワイズと握手を交わしましょう。その事は、自分以外の人間の持つ「多用性」或は「個性」と言っただ目に見えない何かに出会う事になります。又、その事を認める事は自分自身の人間性を高め己の「心の深さ、或は、広さ」をより深くより広くしてくれます。多くのワイズを知ることはそれ自身が自分の人生に於ける知的財産となります。

さあ～ 皆さん出かけましょう 南へ北へ ワイズ  
銀河鉄道の旅はここから、今から始まりま～す！！

## ~~~~~ お知らせ ~~~~~

### ☆中部部会

日時：8月31日（土）11：30～17：30

場所：金沢都ホテル（TEL 076-261-2111）

登録費：10,000円

プログラム

11：30 中部評議会・中部メネット会

13：00 式典

14：00 記念講演 二代目 森乃福郎 師匠  
記念写真

15：40 懇親会

シャンソン、ギター演奏

金沢盆踊り

### ☆個人消息

澁谷洋太郎君は頸椎管狭窄症の手術の為、8月5日(月)から約1ヶ月入院されます。

ご回復を心からお祈りいたします。

### 山岸 勝信氏 プロフィール

1944年4月金沢市生まれ。

1966年金沢大学法文学部経済学科卒業。三谷産業(株)東京支店で15年建材の営業に従事後、現キャスコ(株)に転じ、11年間自社ブランド・内外販路・ゴルフボール事業の構築にあたる。世界初の三層構造ソリッドボール「DC432」の開発・発売で業界にエポックをなす。最終職務は株式公開準備責任者であった。1993年退社独立し企画調査会社を自営、現在に至る。

## ~~~~~ YMCA のお知らせ ~~~~~

### ☆早天祈祷会

日時：2013年9月1日（木）6：00～

場所：金沢YMCA集会室

#### Happy Birthday

メン 澁谷洋太郎君 8月12日

数澤 輝夫君 8月20日

#### 9月の担当

ブリテン執筆：西 信之君

伊藤 悦子さん

卓話担当：メネット会

## 夫 健司を偲んで

夫、健司が天に召されてちょうど半年がたちました。でも、まだ時々、「おっかさん！」と声が掛かってくるような気がします。

夫は、41歳のとき脳梗塞を、60歳の時胃がんのため胃の全摘手術を受けましたが、その後は後遺症や再発もなく、定年退職後も元気に過ごしておりました。しかし、70歳の時、孫と遊んでいて腰椎を圧迫骨折して以来、毎年のように、右大腿骨骨折、右手首骨折、左手首骨折、右鎖骨骨折と骨折を繰り返して、入退院を繰り返してきました。その度に体力、機能が衰え、2年ほど前からは車椅子を使わなければ移動ができなくなりました。一昨年の8月から臀部損傷のため3ヶ月余り入院後、要介護5と認定され、小規模多機能型居宅介護施設にお世話になることになりました。みなさんから「先生」と呼ばれ、「先生はいろいろなこと教えてくれるし、いつも楽しいお話をして私たちを笑わせてくれます」と言ってくださっていました。

昨年5月、彼が所属するワイズメンズクラブの合同例会が彦根で、6月には西日本区大会が長浜でありました。金沢クラブの仲間が「一緒に行こう」と誘ってくださり、彼らの助けを受けて車椅子で参加しました。その時、クラブのメンバー4人が車椅子を持ち上げて屋形船にも乗せてくださり、近江八幡の水郷巡りを楽しむことができました。それが彼の最後の旅となりました。帰沢後、多発性脳梗塞の為、立つこと、座ることはもちろん、寝返りを打つこともできなくなり、血管性認知症も発症していました。

両手もほとんど動かすことができず、食事の介助も必要となり7月、5回目の入院となりました。嚥下障害の為、すべてゼリー状にした食事を完食するのに2時間もかかるようになり、病院にだけお任せすることはできず、毎日、朝夕は私が病院に通って食事介助をしました。味覚もなくなってしまったのか、今まで好き嫌いの激しい人でしたが、こちらが食べさせるものは何でも、文句も言わず食べていました。

9月に入ると、声も出にくくなり、言葉も短い単語程度しか話せなくなりました。病院からは「これ以上できる治療はないから、なるべく早く退院するか、他の施設を探すように」と言われました。いくつかの施設を訪ね歩いて、入所させてくださる労健施設（クリニック併設）が見つかり、10月末からお世話になることになりました。この頃はもうほとんどしゃべることができなくなっていました。お見舞いに来て下さった

った方や、何人かの看護師さんから、「今日ははっきりと『ありがとう』って言ってくれましたよ。」と連絡を受けることができました。唇は動いても何を言っているのかわからない状態の中で、必死に言った言葉でしょうが、「彼らしいなあ」と私もうれしくなりました。

年末一時危篤状態になりましたが、幸い危険な状態を脱することができ、駆けつけた子どもたち（息子、娘とその連れ合い）や、5人の孫たちにかこまれて、ほとんど無表情であった彼の顔に笑みが浮かび、本当にうれしそうでした。まだみんなの顔が分かっていたようです。その後しばらく小康状態が続きましたが、1月半ば過ぎ再び危険な状態となり、「予断を許さない」と言われていましたが、2月10日（日）午前10時57分心臓が停止し、天に召されました。前日の9日（土）も、私はいつものように勤務を終えてクリニックを訪ね、「お父さん、ただいま。今帰ったよ」というと、私が恥ずかしくなるほど、じっと私の顔を眺めていました。そして、口がもぐもぐ動いたので、「何かいいたいことあるの？」と聞きましたが、もう口は動きませんでした。昔からあまり多くを語る人ではありませんでしたが、この何ヶ月間、言いたいことが言えないということは、本当につらかっただろうと思います。

彼と家庭を持って、二人の子どもが与えられた頃、「わしらには地位も名誉も財産も、何もないけど、父親と母親が人生をかけて一生懸命求めていたものが何か、わかってもらえるような生き方をしような」と言う言葉に、「うん、信仰生活を大切にしようね」と私が答えた会話を憶えています。その約束通り、彼は日曜日になると朝早く二人の子どもを車に乗せて、教会学校の働きをするため、教会へ出かけて行きました。神様の支えと、教会学校の先生たちのご指導があつて、子どもたち二人とも高校生の時に受洗し、それぞれ家庭を持った今もどうにか教会に繋がり、信徒として歩んでいることは大きな感謝です。彼から私は多くを学びました。彼は私の人生を大きく膨らませてくれました。彼とはもう言葉を交わすことも、手を触れ合うこともできなくなりましたが、私が生きている限り、彼は私の心の中に生き続けてくれると信じます。私だけでなく、彼を思ってくださいのお一人お一人の心の中に生き続けてくれると信じます。



山内ミハル 記

最後の旅となった水郷巡り